

令和7年度 第2回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

1 日 時

令和8年2月10日（火） 午前10時から12時まで

2 場 所

静岡市地域福祉共生センター 「みなくる」第2階 第二会議室

3 出席者

（委員）岸山部会長、石野委員、池ヶ谷委員、朝比奈委員、沼尻委員、土屋委員、鈴木委員

（欠席者）望月委員

（駿河区地域包括支援センター）7地域包括支援センター

4 事務局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係

保健福祉長寿局 地域支え合い推進部 地域包括ケア推進課 地域支援係

5 傍聴者

4人

6 意見交換及び情報交換（司会及び進行は岸山部会長により実施）

（1）各地域包括支援センターから部会シートに沿って報告

別紙 各地域包括支援センター事業計画書、部会シート参照

（2）委員から質疑・助言等

<八幡山地域包括支援センター>

地域ケア会議の実施状況について、自立支援プラン型地域ケア個別会議が0回となっているが、1月23日に開催をする。

【重点項目2について】

・ケア会議の開催については、ケース対応型ケア会議を実施。主に行政機関の支援が必要だと思われるケースだったため、行政機関と会議を開催した。介護保険の新規申請の理由について分析をした。富士見地区が認知症、森下地区はがんの理由での申請が多かった。

・森下地区の自治会で、来年度から福祉部が正式に立ち上がる。他の地区のボランティア活動など情報の提供をした。

・市営の有東団地や県営の有明団地では、地域の見守りが継続されている。

現在団地のボランティアが充実しているが、その後の次世代の育成が非常に課題となっている。

・八幡山地域包括支援センター支援センター圏域は住宅地が多いため、駐車場がなく、介護サービスや、訪問診療が入りにくいという点が課題に挙がっている。この点については、生活支援コーディネーターと連携をして、いろいろな企業に働きかけを検討している。

・静岡医師会の医療介護連携推進センターと情報交換を行っている。大里高松地域地域包括支援センター支援センターと共同し、ケアマネジャーから意見を聴取し、ケアマネジャーが医療の連携で困っているなどの話を聞いている。昨年からは静岡医師会でもケアマネジャーの意見を聞くことが大切とのことで、葵区でもケアマネジャーの意見を聞く機会を持った話も聞いているため、ケアマネジャーと医療との連携の機会が必要と感じている。

【重点項目3について】

・相談会を開いた結果、富士見地区は今まで相談が少ない地域だったが、相談会以降、認知症に関する相談が増え、申請理由のトップに上がるようになった。森下地区で、対象者に話を聞く中で、健康診断を受けてない方が割と多かった。保健福祉センターに確認したところ、森下地区の検診の受診率が低いとの話を聞いた。地域ケア会議の中でも介護保険の初回申請理由の傾向について説明を行った。

・富士見地区では、相談会がきっかけとなり自主グループが活動開始し、ちゃきちゃき体操等を行っている。自主グループが新たに開設されたため、これをチームオレンジに繋げていきたい。

・森下地区では、S型デイサービスの会場が老朽化して取り壊しをしなければならず、別の場所を探すことが問題となっている。また、S型デイサービス会場では、参加者の高齢化、ボランティアの高齢化で来年度から閉鎖する会場が1か所ある。会場が2階にあり、階段の上り下りが大変などいろいろな問題がある。

・今後、3月9日に森下地区で相談会を、静岡ガスのエネリアショールームを借り実施予定。「かけこまち」の協力を仰ぎ、VR体験機器、脳年齢、脳の健康チェックなども実施予定。相談会を年2回程、いろいろな会場で実施してほしいという要望が、自治会連合会会長からあった。今後は、森下地区に福祉部ができる予定のため、将来的には森下地区の福祉部が主導になり、地域包括支援センターが協力しながら相談会ができればと思う。

岸山部会長：

相談会が活発に行われているということだが、相談会を行うことで、どのくらいの方が毎回集まっているのか。今年は、富士見地区と森下地区で今回認知症やがんの相談が多かったということだが、地域的に高齢化が進んでいるのか。

地域包括支援センター：

相談会は、1時間ほどの時間で、参加人数は15・6人。相談が3件程。実施時間は1時間で丁度よい印象。高齢化率はほぼ横ばい。人口の出入りがあるためほぼ横ばいで、今まで高齢者が住んでいた古い住宅が、家を撤去して、新しい家が建ち、若い世代が入居しているような状況。

岸山部会長：

短い時間で何回もやる方がたくさんの方の来所があり、良い取り組みだと思う。

<大谷久能地域包括支援センター>

【重点項目1について】

・10年以上前から地域の「みまもりたい」という組織がある。地域住民、民生委員、地区社協のス

スタッフを中心に、地域で心配な方や、困り事がありそうな方に、声をかけ地域包括支援センターに繋げていくという活動で「みまもりたい」と総称している。「みまもりたい」発足当時は民生委員を中心に自治会の役員に「みまもりたい」としての活動の方向性を相談しながら支援を行ってきた。民生委員の改選や自治会の役員の交代により「みまもりたい」の活動、隊員を増やすなどの普及活動自体が停滞しているように感じる。そこで、自治会の定例会等に伺い「みまもりたい」の活動を再確認していきたい。

・民児協の会合に都度参加しており、その場を借りて地域ケア会議として、定期的に会議開催をしている。民児協や地区社協、行政、生活支援コーディネーターなどの機関とは、適宜交流を持っているため、パイプがしっかり繋がっており、情報交換は滞りなくできている。法人の都合で、人員の入れ替えなど人員体制が整わない時期もあったが、後半は人員が揃い、来年度以降も今のメンバーの体制で行く予定。

【重点項目2について】

・S型デイサービスやでんでん体操の自主グループの体操に足を運んだ際、参加者やスタッフからの要望があったことから、圏域内の医療機関やリハパークの専門職の方に来ていただき、フレイルの講座などを実施した。自主グループやスタッフの後継者不足はどここの会場でもあり、利用者の年齢は増し、参加者人数が減り、新しい参加者が増えない状況にある。スタッフの後継者不足、利用者の減少が続けば、継続が難しい。継続をどうしていくかが、今後の課題と思っている。

・今年度後半に、圏域内の薬局や金融機関に、福祉マップや地域包括支援センターのチラシ等を配った。薬局は、特に高齢の方が来所するので、気になる高齢者は地域包括支援センターに繋げていただけるような活動を今年度から始めた。来年度以降はこの活動を活発化していきたい。

【重点項目3について】

・支え合いマップは、地区社協と地域包括支援センターが連携して作っている。S型デイサービスや自主グループなど、高齢者が参加できる活動がどこで実施しているか、一目でわかるマップを製作した。都度新しい情報が入ってくるため、なかなか更新が追い付かないが、都度説明をしている。このマップの方針も地区社協と一緒に考えていきたい。

・小学校が圏域内に2か所あるが、1か所に統合されることが決まっている。子どもの人数も少なくなっており、親世代も減っている。特に久能地区は、医療機関がなく、商店もない、交通手段もなく、子どもが減っている。代々の畑を守り続けている方たちが多く住んでいる地域。久能地区は高齢化率がだんだんと上がっている。大谷地区は、高齢化率は30%程だが、静岡大学の学生が多く住んでいるため、学生を含めての高齢化率が30%。学生がいなくなるとかなり高齢化率が高くなる。逆に静岡大学の学生が多く住んでいるので、来年度以降は学生を巻き込み、何かできればと思っている。大谷地区と久能地区を比較すると、大谷地区は大学がある。車を持っている方が多い。若い世代も住んでいる。逆に久能地区は、高齢化率が高い地区。この二極化した地区は、同じ対応の仕方は難しく、それぞれの地区にあった対応が必要と考えている。

石野委員：

「みまもりたい」、「支え合いマップ」はとても良い取り組みをしている。どこの地域にもあるとよいと思う。八幡山地域包括支援センターでも後継者不足という話があり、どの地域でもあると感じる。立ち上げる際には協力者がいて、その方々が頑張っているためよいが、次の世代に投げかけ

る、仲間を増やす方策は具体的にどう考えているか。

地域包括支援センター：

地域包括支援センターというと、介護保険のことや、高齢者との関わりに偏りがちだと思うが、今の子育て世代に、子育てが終わると次は親の介護だという話をしていこうと思っている。その子育て世代の方たちが、もしかしたら次の後継者になり得るのではないかと考えている。

石野委員：

以前提言シートに書いたが、子育て世代や、ひとつ前の退職するくらいの年齢の方、小学校や大学に投げかけてみようかという話があったと思う。一つ前、二つ前、三つ前の世代の方々を巻き込んだ取り組みは良い。特に子どもを巻き込み子どもがそういった視点になると、親も付き合わなければならなくなり、参加せざるを得ない。地域全体でとなる。理想かもしれないが、少し前の世代を巻き込むところが良い。

<長田地域包括支援センター>

【重点項目1について】

・「顔の見える関係作りの会議」を各学区で開催している。今年度の相談の特徴から、この圏域は、地域の支え合い、自然と近隣の見守りができている地域である。個人の支援を近隣住民で支え合いながら頑張っていたが、どうにもならなくなり、また関係が悪くなりそうになったタイミングで、地域包括支援センターに相談して、介護保険サービスを整備することがあると、今年度の相談の特徴から見えてきた。

個別のかかわり、近隣住民や近隣地域でのかかわり。薬局は薬局でかかわり、診療所は診療所がかかわっており、それが有効的に関連を持ちながら相談に発展することがないので、地域の顔の見える関係づくりを各小学校区で開いている。

長田東、南、川原と各学区は地域資源の違いがある。東は、医療機関も商店もたくさんあり、住人の高齢化率も比較的低い地域。反対に南は、医療機関は診療所が1か所で、往診専門の診療所はあるがそこで診療をしていないため、主に診療しているところは1か所のみ。スーパーも1か所しかないという地域。「顔の見える関係づくり会議」を行う際にも、東は順番で声をかけながら、いろんな方々に多く参加してもらうことができるが、南は、同じ機関に毎回声をかけることが増える。それでも、年1回は顔の見える関係づくりの会議を行うことを続けている。川原は10月、長田東は11月に行い、長田南は3月に準備をしている。長田南は沿岸地区のため、3月の「顔の見える関係づくりの会議」で防災訓練に関して触れていく予定。

会議の出席について声をかけるが、店の開店時間や診療の合間ということで、声をかけても参加に繋がらないということが課題として挙げられる。これまでの2年間の会議の結果を、声をかけたところに返していないため、会議の内容を今後報告させていただき、次回の会議に繋がればと考えている。

【重点項目2について】

・スキルアップに関しては、地域包括支援センター内で定期的に事例検討会を行い、そのときに課題になっている事例に関して、三職種で各々の視点から事例を検討し、スキルアップに繋がって

る。法人内で地域包括支援センターの委託が5か所あり、毎月合同ミーティングを行いながら、勉強会を兼ねて開催している。

池ヶ谷委員：

長田地域包括支援センターの活動等の情報をいただき身近に感じている。民児協の定例会で2ヶ月分の活動件数等の報告を受けている。相談件数が多く500件弱との報告を受け驚いている。

地域包括支援センターのまるけあのチラシを年間通して作成してくれている。地域住民のいろいろな講習、ちょっと楽しい興味が湧くような企画を作ってくれ、チラシも配ってくれるため、地域住民から、地域包括支援センターとの身近な関係づくりに役立っているとの声を聞いている。「年間で全部出席する」とか、「楽しかった」という感想も聞いている。このような活動から、地域包括支援センターとの垣根が取れて、気軽に相談しに行けるのではないかと感じる。

地区社協としても、民児協としても、組織として地域包括支援センターがいろいろな会議を持っていて、とても忙しいなという感想。地域包括支援センターに連絡すると、センター内の職員間で情報共有ができてることが一番良いと思う。誰に聞いても知っていて、安心できると感じる。

地域包括支援センター：

おそらく市内の中でも一番広い圏域を担当している。相談件数が多くなっているのは仕方のないことだと思う。職員が7名いるので、翌朝にそれぞれ活動した内容を報告する時間を持っているが、1時間程かかってしまう。内容によっては1時間半程要することがあり、朝一番に訪問が入ると抜ける職員がいるので、共有できる時間が取れたり取れなかったりする。システムの中で対応した相談がいつでも見れるような体制を取り、共有を図っている。

広報誌は毎月出すことが難しく、今年度は1回しか出せていないので、広報活動に力を入れていければと思う。

<丸子地域包括支援センター>

職員の人数ですが、4月1日時点では主任介護支援専門員1人、社会福祉士1人、保健師看護師等3人と記載しているが、現状は各職員2名ずつとなっている。

【重点項目1について】

・職員の人数的変更等もあり、他の部署、同法人の他の部署からの異動、他の法人から入職した方など、職員の経験の差などがある。各職員、力が平坦化するようにミーティング等を行い、ケース対応を検討した上で対応している。ケースの見落としがないように毎月終結会議等を行い、必要に応じて、重層的支援体制整備事業の活用等の検討などを行っている。話し合いを行い、3職種2人ずつの職員配置となっている点から、各職種からアドバイスを受け活用ができています。今年度、相談の内容は権利擁護に関する相談と、8050といった複合化した問題などが上がっており、対応に困ることが多くあった。重層的支援会議やアウトリーチといった事業を活用し対応した。

・ケアマネジャーから、日常生活自立支援事業や身元保証の関心があるという話があるので、来年度、勉強会等を検討している。

・相談件数は、一昨年度は年間通して3295件、昨年度は4538件だった。今年度12月現在で3568件で件数が増えている。今年度も昨年度を上回ると感じている。

【重点項目2について】

・自立支援プラン型地域ケア個別会議を3回行った。昨年度は、医師とケアマネジャーを繋げる圏域ケア会議を開催した。今年度は、自立支援プラン型を行う中で、ケアマネジャーから栄養士や、歯科衛生士からのアドバイスを聞いてよかったという意見も多く、口腔のアセスメントができていない部分が見受けられたため、2月26日に、歯科医師2名と歯科衛生士1名から、ケアマネジャーに対して勉強会兼圏域ケア会議を行っていく予定。

・歯科医師に関しては、地域の歯科医師で往診などやっている先生と、口腔保健支援センターのセンター長である歯科医師、歯科衛生士に参加していただく予定。委員からの質問の中に、薬剤師や歯科医師と繋がりができたことによって何か変化があるか質問があったが、これから行っていく予定。歯科医師も積極的に地域包括支援センターに関わってくれるという話がある。今回はケアマネジャーに対して話を行うが、来年度は地域住民に向けて行うことを考えている。

【重点項目3について】

・広報誌という形で活動を適宜行っている。

・居宅に今年度まわった。丸子地域包括支援センターの圏域の居宅介護支援事業所数は少ないが、ケアマネジャーも新しい方が入って来たり、若返りがあるので、地域包括支援センターの活動内容を伝える形で今年度は動いた。3月に、経験年数が浅いケアマネジャーに虐待の対応についての勉強会を行う予定。

・民生委員も11月に改選があり、今月長田北の民生委員に対して、認知症についての勉強会を行った。長田西に関しては、地域包括支援センターについての説明会を行い、地域包括支援センターの周知を改めて行う。

・長田西はボランティア活動が活発に行われている地域なので、地域のボランティア活動についてケアマネジャーに周知をした。長田北は、先月、新しくボランティア活動が発足した。新しいボランティアの活動に対して地域包括支援センターも支援している。周知に関してはまだまだ必要があるので、引き続き来年度も行っていこうと考えている。

石野委員：

長田西地区はボランティア活動が活発で、また新たに出来上がっているということだが、地区社協の事業として行われているのか。

地域包括支援センター：

社協が主体でいろいろ活動を進めており、地域自治会も発信力のある方がいて、その方が発足しボランティア団体はできた。ボランティアの方の担い手がいなくなっている課題が出ている。地区社協自体も若い世代をどのように取り込んでいくのか、話し合いを毎年行っている。今年度、地域包括支援センターがファシリテーターとして次世代をどうやって取り組んでいくか話し合う中で、若い世代に地区社協自体を知ってもらい、SNSの活用とあった。長田西で自治会館を借りることができ、自治会、社協について知ってもらいイベントの企画を来年度は地区社協が考えていると思う。

石野委員：

社協の生活支援コーディネーターが中心になって動いているのか。

地域包括支援センター：

丸子圏域を担当している地域支援コーディネーターは力があるので、いろいろな地域との繋がりを行っている。

池ヶ谷委員：

長田西はまちづくり協議会があると聞いているが、地区社協との関係はどういった形になっているか。NPO法人でとても活発に活動していると聞いているがどのような形で行っているか。

地域包括支援センター：

元々は地区社協が発端。そこを細分化してNPO法人まちづくり協議会というのができたと伺っている。

池ヶ谷委員：

役員も地区社協や民生委員も重複して役員をやっていると聞いたことがある。どのようにすみ分けがあるかわからなかったので質問させていただいた。

<大里高松地域包括支援センター>

【地域ケア会議の開催状況について】

- ・自立支援プラン型地域ケア個別会議は3回と記載されているが、今月2月18日に最後の4回目を開催する予定である。
- ・ケース対応型地域ケア個別会議も6回と記載されているが、1月15日に追加で行い、7回開催済みである。

【重点項目1について】

- ・地域包括支援センター内で対応に苦慮していたり、ケアマネジャーから相談を受けたりした場合は、事例検討会を行っている。開催数は9件とあるが、2月5日にも1回行い計10件の開催だった。ケース対応型地域ケア個別会議を含め、様々な関係機関に参加してもらえた。会議では解決に至らないことも多いが、ケアマネジャーやヘルパー、訪問看護等の困りごとを多機関で検討している。
- ・相談内容に合わせて、こころの健康センターや法テラス、弁護士会のホットライン等を活用して、あらゆる相談にどの職員も対応できるようにしている。

【重点項目2について】

- ・八幡山地域包括支援センターと合同でケアマネサロンを開催し、色々な機関との交流及び勉強会を行っている。
- ・主任ケアマネ連絡会主催の研修では、リハビリ職や生活支援コーディネーター、ケアマネジャーとで地域資源について意見交換を行った。
- ・終活支援事業の研修をするにあたっては、研修を2部制とし、第1部では事前にケアマネ

ジャー、グループホームやデイサービス、施設の方にアンケート調査を行った上で、静岡市安心感がある温かい社会推進課に講義を行ってもらった。身元保証人や緊急連絡先がない方の支援については地域課題になっているため、第2部では参加者で意見交換を行った。

・地域ケア会議を積み上げていくと、いかに色々な関係機関との繋がりが地域の中で暮らすためには大切かということに気付く。ケアマネジャーからは、身寄りがなく緊急連絡先がないために、本来は必要である静岡市の在宅福祉サービス（配食サービス等）が使えないとの声を聞いており、これは地域課題であると感じている。

【重点項目3について】

・認知症サポーター養成講座を5回開催した。来週も企業からの依頼があり1回開催する予定。当地域包括支援センターにはキャラバンメイトが3名いるため、職員自らが講師となり講座を行っている。講座の受講生との連携について、南部学区はチームオレンジが発足しているため、毎月行われている地区社協の会議で認知症の方への対応等を話している。参加者にはS型デイサービスのボランティアも含まれているため、日常的にできる対応についても助言をしている。また、年1回は当該会議に当地域包括支援センターも参加し講義を行い、認知症の方への対応方法等を伝えている。

・認知症の啓発として、市と南部図書館と共同して、みなくるでイベントを行った。来年度以降も継続したいと考えている。

・12月に民生委員の改選があったため、来年度は新たな民生委員向けに養成講座を開催できるよう講座自体をPRしつつ、当地域包括支援センターのこともPRしていきたいと思っている。

石野委員：

多職種（司法、精神、障害等）を巻き込み複合的な課題を抱える方に対しての地域ケア会議や検討会を行っている点は素晴らしい。そこに参加された方々以外にも、課題や対応方法等を報告できる場があると、地域全体に波及できるかと思う。そういった活動はあるか。

地域包括支援センター：

地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議の開催数が1回という結果を見ても、指摘していただいた事柄が当地域包括支援センターの課題だと感じている。会議を積み上げてきた結果、見えてきた課題を広く報告し、それによる話し合いが更に行われるよう、来年度以降は考えていきたいと思う。

石野委員：

すごく良い事例が積み重ねられていると思うので、会議の中だけでなく自然に対応できる姿勢を地域の方々に持っていただけるよう、そのような機会を作ってもらいたいと思う。

岸山部会長：

認知症サポーター養成講座は年6回の開催なので、2ヶ月に1回の頻度で開催していることになる。また認知症に関するイベントには80人の参加があり、地域住民も興味を持って参加してくれていることが伺えるが、どのように周知しているのか。

地域包括支援センター：

認知症サポーター講座はリピーターがいる。例えば圏域内に通信制高校があるため、2年後に学生が入れ替わるタイミングで再度依頼がある。また、市内の児童クラブにもPRを行っていたり、民生委員の改選等があると講座のチラシを渡し、依頼を貰うことが多い。

岸山部会長：

若者から高齢者まで、皆が認知症サポーター養成講座に興味を持っており、とても素敵な地域だと思う。

<小鹿豊田地域包括支援センター>

【地域ケア会議の開催状況について】

・自立支援プラン型地域ケア個別会議は、2月19日に1回開催予定なので、計4回開催する見込み。

・ケース対応型地域ケア個別会議は、0回の記載だが1月9日に1回行った。

・地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は、2月26日に“自宅ですつとミーティング”として、人生会議をテーマに開催予定。

【重点項目1について】

・当圏域はS型デイサービスが活発な地域で、出前講座の依頼をたくさん受ける。特に西豊田学区は細かくS型デイサービスが設置されており、今年度は6回出前講座の依頼を受けた。講座内容は、これからも元気に活動できるように、運動型のデイサービス職員に介護予防プログラムを教えただけだったり、明治安田生命保険に健康測定会を開いていただいたり、当地域包括支援センターの法人母体である特別養護老人ホーム小鹿苑の職員に“座りヨガ（座りながらできる運動）”を教えて貰ったり、しずおかちゃちゃちゃとコラボしてコーヒーを楽しむ会を開いたりした。

・当地域包括支援センターは小鹿苑の中に配置されている。小鹿苑では“小鹿苑カフェ”というものを開いており、今年はそこに地域包括支援センターが協力させて貰った。静岡県立大学の学生や南部特別支援学校の小学生、するがデイサービスの方々と一緒に活動させて貰う機会も得ることができた。

【重点項目2について】

・地域ケア会議の開催を通して、支援者や地域住民と連携していきたいと思う。

・総合相談件数も前年度より増加しており、認知症の方等何回も関わるケースが増えている。

【重点項目3について】

・今年度は早めにチラシを作り、認知症予防について色々な会議で広報を行った。

・今年度は認知症に関する講座や、研修会を開く機会が少なかった。当圏域に認知症カフェが新たにできたので、来年度は認知症カフェ（3か所）に参加し地域包括支援センターを知って貰いつつ、認知症の方々への関わり方もこちらも学びながら取り組んでいきたい。

池ヶ谷委員：

出前講座に明治安田生命保険が協力してくれたとのことだが、どのような講座を開いてくれたのか。

地域包括支援センター：

講座というよりも健康測定会を行って貰った。血管年齢や骨密度、野菜の摂取量を手で測れるような機器を持って来ていただき、A B C Dランクで評価することで指導を受けるというもの。同じような測定会を東豊田学区で行った際は、そこに保健センターの保健師や栄養士にも来てもらい、健康相談に繋げるようにした。

石野委員：

フレイル予防に関して、色々な機関に協力いただけておりとても良い取り組みだと思う。明治安田生命保険で行って貰った健康チェックは、予防という点で重要だと思う。これからも予防の取り組みを継続していくためには、まず自分の体の状態を知り、その後どう変化したのか、維持できているのかを知ることが重要だと思う。今回のような健康チェックを定期的（例えば半年に1回や年に1回）に自分の体の状態をチェックするような計画はあるか。

地域包括支援センター：

明治安田生命保険は今年からの協力なので、継続して貰えるのかは未定。東豊田学区で行った健康相談でも、似たような機器を利用し測定している。こちらは2年目だが、昨年からの評価という所までは繋がっていないので、地域の方と相談しながら継続していけるよう工夫していきたい。

岸山部会長：

地域ケア個別会議で和尚さんの話を聞いたとのが、地域に住む和尚さんは身近でありながら、なかなか話を聞く機会はないように思う。こういう方を巻き込んで会議を行うという企画は、どのようにして生まれたのか。

地域包括支援センター：

これまでに3回行っている“自宅でずっとミーティング”の集大成として、和尚さんを講師に迎えた。この方は、法人母体である特別養護老人ホーム小鹿苑でお世話になっている和尚さんであることその他、S型デイサービスの会場として寺を貸していただいている等、地域に根差して活動をしてくださっている。そのような繋がりから、明るい終活について相談したところ、地域の皆が笑顔で最期を迎えるためには、まずは自分が笑顔でないといけないという言葉をいただき、「笑顔で自分も幸せになりながらみんなでハッピー」という題目で講話をしていただくことができた。

岸山部会長：

終活をテーマにしたテレビ番組で和尚さんに行きついていた場面を見たことがあるので、身近な和尚さんに話を聞くことができる今回の企画は、得をしたような気分になれる良い企画だと思う。

地域包括支援センター：

長田地域包括支援センターで行っていた活動で、和尚さんの話を聞く企画があった。地域包括支援センター職員自身も行きたいと思った企画だったため、依頼するに至った。長田地域包括支援センターのおかげで、実施できた企画である。

岸山部会長：

このように部会で得た情報を地域包括支援センター同士で参考にしながら広がっていくと、駿河区内または静岡市全体で広がっていき、素敵な取り組みに溢れていくと思う。

＜大里中島地域包括支援センター＞

【地域ケア会議の開催状況について】

・ケース対応型地域ケア個別会議は、3月に1件開催が決定したので、今年度は計5回の開催となる見込み。

【重点項目1について】

・当地域包括支援センターが、1番力を入れて取り組んでいることである。主任介護支援専門員の会と銘打っており、様々な専門職種の方々に参加していただいている。年4回程の開催を、数年続けることができている。

・経験の長い居宅介護支援事業所が多いため、顔見知りも多い。春に1度集まり、今年度、どのようなこと勉強したり話し合いたいかということをご提案していただき、その年のテーマが決まる。

・専門職種同士の連携は密になって来ており、良い関係性が保たれている。

・今年度は介護支援専門員の人手不足やシャドウワーク等の業務過多による疲弊が問題化しており、関心も非常に高かった。今後も、今ある社会資源と協力させていただきたいと思う。

・業務外で発生する労力や費用を、シャドウワークと捉えるのか、自身の勉強や知識の蓄積と捉えるかという違いもあるが、メリットがないと協力を得ることは難しい状況となっている。

【重点項目2について】

・児童クラブを対象に、認知症サポーター養成講座を開催した。子ども達の受け入れは良い。これまでの部会でも、子ども達へのアプローチは大事なことでありとアドバイスをいただいているので、続けていこうと思う。

・この講座を受けた子どもたちがその役割を披露する場を作るということについては、今後の課題として検討する。

【重点項目3について】

・グループホームとの連携方法を、昨年から模索している。

・圏域内にグループホームが現在5つあり、3月には1つ新設される予定。グループホームで行う会議には地域包括支援センター職員が参加しているが、グループホーム側からアプローチを貰うことはなかったため、このような会議を立ち上げた。

・グループホームでも、職員の手不足があり業務が大変と毎回聞いている。そのような中でグループホームの職員の質の確保や、知識を得る時間や場所の確保という点に関心を持っていただいた。地域貢献という点でも協力いただけるかお誘いしたところ、中には地域に出て自分の専門職としての知識を披露したいという職員がいて、力強い言葉をいただいた。

・来年度以降、グループホームの方々には、主任介護支援専門員の会で他の専門職の方々との関わりも持っていただこうかと考えている。そこでできた繋がりから、認知症カフェにも協力をいただけるよう支援していきたいと思っている。

石野委員：

前は、認知症サポーター養成講座を受講した子どもがそれを発表する場を作る、直接的に協力して貰うという視点で助言をした。今回は、ボランティア不足の解消にも繋がるよう、子ども達と一緒に住んでいる親世代や祖父母に対してアプローチしてもらい、その方々がまた外であらゆる活動に協力して貰えるよう、いわば間接的に協力してもらおうという関わり方を助言したい。養成講座を聞いた子ども達はその知識を家に持ち帰り、ちょっと両親に投げかけてもらえるような仕掛けがあっても面白いと思う。

地域包括支援センター：

来年度以降、考えてみたいと思う。

岸山部会長：

圏域内のグループホームの職員と連携していくことは、素敵な取り組みだと思う。地域包括支援センターと地域の施設と一緒に何かをするということは、一緒に勉強をして知識を高めるだけでなく、顔の見える関係ができるので、今後も連携しやすいと思う。

地域包括支援センター：

グループホームの中では世界が狭くなってしまう、と発言された職員がいたため、2回目のグループホームの会議では、会議の会場としてあるグループホームを貸していただき、グループホームの職員が別のグループホームの雰囲気等を見してみる機会とした。すると、次回は自分達のグループホームを利用しても良いと言っていた所もあるので、良い取り組みだったと思う。

岸山部会長：

別の施設を見る機会はなかなかないので、このような機会を利用して繋がっていただき、地域全体で質の底上げができると良いと思う。

池ヶ谷委員：

民児協もグループホームの運営推進会議に出席している。出席した民生委員は毎月の定例会で報告をしているので、地区にあるグループホームの様子はわかる。このような活動は良いと思う。

7 令和7年度駿河区地域包括支援センター運営部会のまとめ

<令和7年度 地域包括支援センター運営部会報告（駿河区）>

岸山部会長：

順番に報告（案）に関し感想や意見を発言していただき、修正等を審議したい。

土屋委員：

ケアマネジャーが問題意識を持っている点として、軽度認知症とシャドウワークが挙げられる。シャドウワークという言葉が1人歩きしているような感じもあるが、なぜシャドウワークが発生す

るかという、それを繋ぐ先がないためである。例えば簡単な電気の交換等は、その地域に助け合い活動があれば、その活動に繋がることができる。そういった繋ぎ先の確保ということも、地域包括支援センターに支援していただければ助かると感じた。

沼尻委員：

情報発信について、医療業界にいと当たり前のように感じている暗黙のルールや流れ等を、一般市民の方々は私達が想像する以上に知らないと感じる。私達も普段から情報発信や啓発を行っているが、意外と伝わっていない。自分自身の生活に置き換えてみても、そういえばそんなことがあったなという経験はいくつもあるが、実際に自分がそれを必要とするタイミングにならないと、その情報と繋がらない。痛い目に遭わないと慌てないのが一般的だが、そうなった時にすぐに繋がられる状況を作っておくことが、専門職や専門機関の役割だと感じている。

地域包括支援センター等のポスターを目にすると情報発信として行っていると感じるが、おそらく一般市民の目にはなかなか入らないと思う。これからも地道にやっていくしかないと思うが、私も業務等で地域包括支援センターへ繋がられる機会があれば、情報を発信していきたいと思う。

朝比奈委員：

ボランティアセンターのセンター長をしているが、人材不足は如実に表れている。高齢社会では助けていかなければならない高齢者はたくさんいるが、助ける側の人数は少ない。助けられる側と助ける側のバランスがアンバランスになっている。私は地区社協にも在籍しているが、今40代から60代、小学生の子どもを持つ父兄の方々を、どのように動かすことができればもっと地域が活性するかということを考えている。その中で地域包括支援センターや各事業所との連携はとても大事だと感じているため、地域包括支援センターには毎回会議に出席してもらい、地区の状況を報告している。これからそういう連携は大事だとこの運営部会を通じて感じたので、もう少し細かに活動を展開していくと違った面が見えてくるのではないかと感じた。

池ヶ谷委員：

民生委員は12月1日に一斉改選され、地区によっては3分の2以上が入れ替わった所もある。現在は定年が延長され、地域デビューをする年齢も上がってきている。新たな民生委員はまず民生委員の職務を理解するという所から始めている。

また、民生委員は推薦されてはいるがあくまでも地域住民であり、ボランティアである。専門職でないので専門的なことはわからない。しかし民生委員の強みは、その地域に住んでおり住民同士の顔がわかるので、住民からの相談が多くあることである。電話は昼夜、休日を問わず来る。民生委員を頼って相談できれば良いが、それを発信できない、もしくは困っていることに気づいていない場合がある。そのような時、民生委員としては、まず助けを求めて貰えるような関係作りを行っていく。その次に、民生委員は専門職ではないので、地域包括支援センターに相談する。“困った時の地域包括支援センターさん”という合言葉が民生委員の中にはあるくらい、頼りにしている。地域包括支援センターの支援対象は基本的に65歳以上だが、若い世代や子どものことでも繋ぎ先がわからない時には相談しており、地域の中にある地域包括支援センターは民児協にとって心強い存在である。

鈴木委員：

業務で成年後見業務を行っている。最近では身寄りのない高齢者が増えてきている印象があり、今後も就職氷河期世代が高齢化すれば、より増えるのではないかと思う。そういう方は、病院に入院する時の身元保証や、マンション等の賃貸物件を借りる時の保証人を求められると、誰も相談する人がおらず困ってしまう。民間事業者で身元保証サービスを提供している所も市内にいくつかあるが、そのサービス内容には格差があり、必要な費用等の説明が曖昧な事業者もあるので、今後身寄りのない高齢者をどう社会で支援していくのかということ、関係機関と協力しながら取り組んでいきたいと思う。

石野委員：

日々様々な複合的な課題の相談を受けながら色々な活動をしているのだと、改めて知ることができた。シャドウワークの部分を少しでも改善していくためには、専門職や地域包括支援センターだけではどうにもならないと思うので、地域住民の助け合い活動をより活発化させ、役割分担ができれば良いと感じた。地域住民を巻き込むためには、自分達の地域にどのような課題があり、どのようなことをしていかなければいけないのかということ、地域住民とその地域にいる専門職種と一緒に考える機会を地域包括支援センターに設定して貰い、住民自身に自分達でどうにかしていこうという意識づけを行うことで、負担を分け合えるのではないかと感じた。

岸山部会長：

普段は病院勤務なので、入院を機に今までは1人でできていたことができなくなり、まだ介護申請をしていない方には地域包括支援センターに相談するよう案内する機会は多くあったが、それ以外にもあらゆる取り組みを行っているということは、病院にいると見ないなど感じた。

また、自分は困っていないと思っている人もたくさんいる。本来は地域包括支援センターや民生委員に相談をした方が良いような場合でも、「私は困っていないから」と言われると、どう地域に繋いでいけば良いのだろうと考えることがよくある。家族と生活しておらず、子どもは県外に出ている等で身寄りがない方もいるので、どのように地域に繋げていけるのかということを考えながら、話を聞かせていただいた。

岸山部会長：

では次に、この報告書（案）に修正等の意見がある方は、発言をお願いしたいと思う。

全委員：

発言なし。

岸山部会長：

それでは、この報告書（案）を静岡市運営協議会に駿河区として提出してよいか。承認される方は挙手をお願いします。

全委員：
挙手。

岸山部会長：

承認ありがとうございます。この内容で駿河区の報告書として提出する。